

# 千葉県社保協通信

2019年度一 No19 2020年 6月9日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉セカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール [syaho2006@star.ocn.ne.jp](mailto:syaho2006@star.ocn.ne.jp)

## コロナ災害を乗り越える 全国いっせい電話相談

## 状況は いっそう深刻に すぐに手元に届く支援と 制度の周知と拡充を！！



ちば労連会場では 11 時～16 時まで、弁護士・ソーシャルワーカー・労働相談員 13 人の相談員が対応しました。

「緊急事態宣言」は解除されましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が全国に広がる中、「コロナ災害を乗り越えるいのちとくらしを守るなんでも電話相談会」が 6 月 6 日全国 47 都道府県 103 会場で開催されました。弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門家や労働組合などをつくる実行委員会のよびかけによるものです。

千葉県内では、千葉労連の事務所のある自治体福祉センターと県弁護士会館の 2 会場で行われ、仕事や暮らしにかかわる深刻な相談が寄せられました。

千葉労連会場には、県社保協の加盟団体である自由法曹団の弁護士、民医連のソーシャルワーカー、千葉労連労働相談センターの相談員が待機。開始前から地元の千葉テレビが取材に入りました。

NHK が昼のニュースで全労連会館での相談会の様子を報道するとすぐに電話が鳴りました。

60 代の女性は「アパレル関係で働いていたが、昨年 10 月から仕事がない。コロナで余計見つからない。緊急事態で全くなかった。年金はわずかで働かざるを得ない。貯金を取り崩し底を尽きかけている。住居は亡夫が残したマンション。固定資産税の支払いも大変」と言います。

相談員は「仕事が見つかるまで、生活保護の利用を考えるよう持ち家でも生保が受けられることや社会福祉協議会の緊急小口貸付の活用」を伝えました。

まとめ会議で、矢澤純千葉労連事務局長（県社保協副会長）は「全体の特徴として労働相談から生活全般の相談にシフトしてきている。社会保障制度を拡充して救うべき命がたくさんある。社保協の運動を発展させ、生存権が守られる社会にしていく必要がある」と話しました。

### 東葛健康友の会・流山の医療を守り支える会

## 新型コロナウイルス感染症から いのちと健康を守る緊急署名を提出

「東葛健康友の会」と「流山の医療を守り支える会」は、この間、「流山市」と「千葉県」に対し、新型コロナウイルス感染症に対応する医療体制を強化・整備するとともに通常の医療も安心して受けられるよう支援を求める緊急署名に取り組んできました。

団体署名には、年金者組合、生活と健康を守る会、国民救援会、東葛健康友の会、新日本婦人の会、千

葉土建の各支部が賛同。

6月5日、第1次集約分1166筆と10団体の請願署名を流山市に提出しました。

請願内容は、PCR検査体制の強化・拡充、医療機関などへの個人防護具の提供や必要な財政措置と支援を行うことなどです。

5日の署名提出行動には、東葛病院友の会、流山の医療を守り支える会、年金者組合の3団体6人が参加。医療現場の窮状を訴え、早急な支援を求めました。

引きつづき千葉県への署名提出と流山市への2次集約提出にむけ署名を広げています。